

富良野市防災会議結果報告(概要)

■会長挨拶

北市長が防災会議の会長として挨拶。

■報告事項

○パブリックコメントの実施結果について

事務局から説明を行う。

※質疑等なし

■審議事項

○富良野市地域防災計画の修正について

事務局から修正(案)に関して、説明を行う。

【質疑等】

○荒木委員（商工会議所会頭）

防災行政無線がなくなって IP 無線になっているが、違いは何か。

【回答】

これまでの防災行政無線は、市独自で基地局を設けて、その機械を使って職員間の連絡手段に使っていた無線機。この度、整備した IP 無線については、ドコモや au の回線を使った無線機になる。役割としては職員間の連絡手段として変わっていないが、独自で基地局を設けて通信をやり取りするか、キャリア回線を使ってやり取りをするのかの違い。これまでの防災行政無線はアナログの電波を使っており、今後アナログの電波が使えなくなるということで、この度の庁舎移転に伴い、アナログの無線を廃止し、IP 無線を整備した。

【質疑等】

○荒木委員（商工会議所会頭）

他の町では防災行政無線を使って市民に発信していたので、それがあるのかと思っていたそうではないということがわかった。そうすると、市民に対するいろいろな周知方法が資料に出ているが、コミュニティ FM ラジオふらのについて、ブラックアウトのときに、電気がないのにずっと放送していて助かったという話があった。また、東日本大震災等でも、コミュニティ FM はかなりの発信力をもっていたという話があった。コミュニティ FM に関する記載はあるが、市民周知の中でもっと大

きな位置づけをしても良いと昔から思っており、また、そのためにアンテナ等の整備をされたと聞いているので、ぜひそういったところの広い意味でコミュニティ FM というのは位置づけるべきではないかと思うがいかがか。

【回答】

コミュニティ FM ラジオふらのの関係については、災害時の放送に関する協定を締結しており、緊急時の放送に協力いただけるようになっている。

お話しがあったブラックアウトのときも放送を続けていただいたということもあり、ラジオふらのの活用については、計画の中でも盛り込んでおり、実際の災害時にも機能しているので、伝達手段として、市民の方にラジオの活用ということも引き続き周知を続けていきたいと考えている。また、周知の部分で言うと、自主防災組織を地域でつくっていただけるよう市としては呼びかけを行っている。通信手段だけでは届かない部分に関しては、人と人とのつながりの中でカバーをしていくということも併せて取り組みを進めていきたいと考えている。

【質疑等】

○荒木委員（商工会議所会頭）

今、国土強靱化の基本計画で1月末に内閣府で中間とりまとめが出て、意見書を全国から集めているところ。その中で、噴火と噴出物が国民の生活に多大な影響を与えるとあった。富士山を想定してのものだと思うが、本市においては十勝岳があり、今までの例からいうと、いつ噴火してもおかしくない時期と思うが、これに対して、一応降灰という記載はあるが、降灰だけでいいのか。大正15年の噴火の時は泥流が富良野の手前まで来たという資料もあり、通行止めなど、必要であれば計画に入れる必要性があるのではないかと思うがいかがか。

【回答】

ご指摘のあった、噴火の災害の関係について、十勝岳の噴火災害の計画をこの計画とは別に策定しており、その中で降灰だけでない対応について記載をしている。また、先月、関係機関と十勝岳噴火防災訓練を実施し、そこでは、富良野市まで泥流が一部到達をするという前提で、本市も参加をしている。

【質疑等】

○荒木委員（商工会議所会頭）

富良野市のBCPがどういう形になっているのかお聞きしたい。というのは、この計画だけではなく実際の行動計画プラスそれに対するきちんとした訓練が必要になるかと思うがその辺についてお伺いしたい。

【回 答】

富良野市としても、業務継続計画は策定をしており、例えば発災したときに、まずは最低限やらなければならないこと、一日目過ぎた後にやらなければならないことなど、業務の区分けをしている。BCPに沿った訓練というのは、実施できていないのが現状であるので、今後、富良野市の防災訓練については、今後BCPの考え方も含めて計画をしたいと思う。

【質疑等】

○荒木委員（商工会議所会頭）

BCPと防災計画がどういうところでどういう風に連動しているかの整合性がわかるようなものを出していただきたい。というのも、これだけ書かれてはいるが、意外と行動が読みづらい。実際の行動というのはBCPに反映されていると思うので、それとの連動という形のものもだしていただくと皆さんにわかりやすいのかなと思うので、ぜひ検討していただきたい。

それと、30ページの左側の「地震動特別警報」の発令に関して、「最大震度5弱以上の揺れが予想されたときに」とだけなっていて、何するのか書いていない。「発表する」という言葉が抜けてるし、むしろこれだけだとするならば、一番上の方の特別警報と分けて、通常の警報については、「最大震度5弱以上の揺れが予想されたときに発表する。」という風に整理された方が良いと思う。

【回 答】

前後の文脈を踏まえて対応させていただきたいと思う。

※その他、質疑意見等はなく、審議事項の富良野市地域防災計画の修正について承認された。

■その他

次期防災会議委員の委嘱について、事務局より説明。

※質疑等なし

・その他、荒木委員より

パブコメの中で、南富良野町の災害時でのアマチュア無線についての記載があり、職員はアマチュア無線を使わないから、記載を抜いたと書いてある。防災計画では、別のところでアマチュア無線団体との連携についての記載があり、職員間の連絡に

おいては使わないけれども、アマチュア無線団体を通じて、市民への周知はするということだと思うので、市の意見の考え方の文中、一番最初の文章で防災無線をやめたのは、職員の連絡用であった無線機については、廃止という明記した方が良いのかなと思う。もう一つ、アマチュア無線団体との連携についても、災害時には大事だと思うので、その辺についてもう少し整理をしていただきたい。

【回 答】

アマチュア無線の関係について、職員が携行するというものからは外したというお答えをパブリックコメントの中でさせていただいた。記載の仕方については検討したい。